

専念寺通信

専念寺通信

八月号 (NO. 108)

今年も8月、専念寺の境内では、蝉しぐれが毎日にぎやかに聞こえています。水の災害なども多いことしの夏ですが、みなさま、お変わりなく過ごしでいらっしゃいますか。

☆お盆

今年のお盆は、13日から15日までが平日でしたので、その前の週末、そして次の週末まで、お墓参りの檀家さまが絶え間なくおいでになりました。ことしは合計で140名の檀家さまが記帳してくださいました。お盆のあいだは、本堂の大扉を開け放し、ろうそくと焼香炭をたやさぬようにつとめました。みなさま、お墓参りのあとに、阿弥陀仏に手をあわせていらしたようです。お盆のあいだは住職が大学勤務のある日もあり、娘や娘婿と一緒に大玄関でみなさまとお会い致しました。猛暑のなか、夏目坂をあがって来るだけでも汗、お墓の掃除を熱心に済ませて、汗、けれど、みなさますがすがしい表情でごあいさつくださり、みなさまの信仰心の篤さとやさしさに私共がたくさんの方を教えていただいた気が致します。入院中に一日外出の許可を得て墓参りにいらした方、結婚のご報告にいらし



た方、病をやり過ぎ、その経過を話してくださる方、今年も大勢の檀家さまとお話することができ、有難く、幸せな思いでお盆の期間を過ごしました。写真は、墓地の中に二本ある、櫟（けやき）

です。境内入り口の銀杏と同様、区の保護樹林になっていますが、この櫟は冬にはすっかり葉を落とし、なさけないほどに裸木になり、枝を払ったりすると、本当におじいさん（おばあさん？）なのだな、と思わせるのですが、春になると新芽を出し、どんどん葉が繁り、夏にはなんとも美しい、みっしりとした緑の葉を持つ見事な大木になります。葉はぎっしりとしげり、風が吹くと、たくさんの葉をつけた枝がゆさゆさと大きく揺れ、眺めていると圧倒されるようです。そして、幹を見ると、左下に写真のようにみっしりと苔がはえています。触るとふっくらとした緑色の苔です。特に櫟の北側の幹はいつも、この苔におおわれています。

さて、上のちいさな写真は、墓地の奥にひっそりと生えている笹です。どこから来たやら、笹の若い葉があちこちに、ちいさな群れを作って生え出て来ました。墓地の中に笹竹はなく、永代供養塔からはとても遠いのですから、何かの縁で、どこから来たのでしょうかと、抜いたりせずに見守っています。

暑い日々がつづきます。ちいさな寺のささやかな緑で少しでも涼を感じていただけたらと思います。

平成21年8月1日 大黒

